

令和6年度 園経営計画 足立区立宮城保育園

園長 楠 敦子

1 園の経営目標

- (1) 一人一人の子どもを大切にすることで子どもや保護者との信頼関係を築き、子どもにとってふさわしい場所として安心して自分を出すことができる保育を実践する。
- (2) 主体的に取り組む様々な体験を通して、子どもの心と体、感性を育て、夢や希望を信じて生き抜く力の基礎を培う。
- (3) 保護者と地域に寄り添い、地域の教育と保育を支える拠点として子どもの健全な発達を図る。

2 園の現状

- (1) 子どもたちは自分でやりたい遊びや場、物を選んでのびのびと過ごしている。異年齢児とも自然に交流して遊んでいる姿があり、遊びを通して社会性や協調性を育む場になっている。
- (2) 保育者は、生活や遊びを共に過ごす異年齢保育に取り組んでいる。園内研修において全職員で保育を振り返りながら意見を出し合い、研修で得た学びを共有し、保育実践に活かしている。
- (3) ICTを活用し、園での様子や情報を随時発信し、保護者と子どもの育ちを共有している。

3 今年度の重点的項目

重点的に取り組んでいきたい事項－1	子どもが「やってみたい」「楽しい」と感じながら遊び込める環境をつくる。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 子どもが自分で選び、「やりたい」がかなう環境づくりを工夫する。	ア 一人一人の発達や遊びの様子を見取り、子どもの興味や関心に合った環境を定期的に見直しながら整えていく。 イ 自分の思いや考えを表現し、イメージしたことを実現できるように、年齢に応じた材料や素材を提供していく。
(2) 自ら関わり、試行錯誤しながら遊べる場と時間を保障する。	ア 子どもが自分なりに遊びを工夫し、主体的に遊び込めるよう環境を整え、受容的に関わる。 イ 材料や素材を自ら選んで遊べるような環境を充実させ、事例を通して学び合い、保育力の向上を図る。
重点的に取り組んでいきたい事項－2	子どもの育ちを共有し、学び合い、保育の質を高めていく。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 園全体で子どもの姿を共有して、一人一人への理解を深める。	ア 月一回の園内研修を継続して行い、異年齢保育を通して育みたい子ども同士の育ち合いについて学びを深め、子どもの心情や発達過程を大切にしたい保育を実践する。
(2) 安全、安心な環境づくりを行う。	ア 子どもの人権を尊重した保育の実践について、ガイドラインやチェックリストを用いて年3回の振り返りを行う。 イ 生命の安全教育などについて会議や連絡会の中で職員が考え合い、日々の保育で実践する。
重点的に取り組んでいきたい事項－3	保護者や地域と連携して、子どもの育ちを支えていく。
具体的な取り組み	
項 目	具体的な内容
(1) 日々の保育内容や情報を保護者に随時発信する。	ア コドモンの機能を活用し、年齢別の活動写真など、子どもの姿や保育園の様子をタイムリーに発信する。
(2) 地域交流を通して、子育て支援の拠点としての役割を担う。	ア 幼保小連携活動や三園交流などの活動を地域の拠点として中心的に進め、就学に向け円滑な接続を図る。 イ 園庭開放や行事参加、園見学などを随時行う。